

氏 名：西田 志穂
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第219号
学位授与年月日：2022年3月10日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論文審査委員：主査 亀井 智子（聖路加国際大学教授）
副査 山田 雅子（聖路加国際大学教授）
副査 吉田 俊子（聖路加国際大学教授）
副査 榊原 哲也（東京女子大学教授）

論文題目：慢性心不全で生きる高齢者の病いの経験

博士論文審査結果

本研究は、慢性心不全をもつ在宅高齢者に焦点をあて、現象学的アプローチを用いて70～80歳代の5名の研究参加者が語る病と生活に関する経験を記述して、彼らの経験の本質の特徴を示すことを目的とした質的研究である。

審査の過程では、非構造化インタビューをもとに、丁寧に各研究参加者の病と生活の経験がありのまま記述され、現象学の専門家からのスーパーバイズを受けながら、記述と解釈を進めてきたことが評価された。

審査委員からは次の点について指摘がなされ、修正が求められた。

1.博士論文としての構成について

現象学的研究の特性は理解できるものの、インタビューで研究参加者が語った内容に対する研究者の解釈と分析、考察、専門家からのスーパーバイズの内容の別が整然と区別できずに結果のセクションに書かれており、結果の構成がいわゆる博士論文の形式をなしていない。また論文の文体が客観的表現でないもの、疑問文のものが散見され、文意を掴むことができないものがある。データを分析した過程の説明も不足している。これらについて全面的に修正する必要がある。

2.使用している現象学の方法論について

現象学を用いたわが国の看護学研究のスタンダードになりつつある枠組みはあるものの、現象学的方法論としての確立はまだ十分でない現状もある。そのため、本研究で用いた現象学的方法論について、何に基づいたものであるのか丁寧に説明し、この研究で行った分析の

オリジナリティについても説明する必要がある。

3.病の本質的構造の説明について

本研究から明確化した慢性心不全をもつ高齢者の病の経験の本質的な構造とは何であるのかを掴むことが難しい。「構造」でなく西村による「成り立ち」としてとらえると、方法論と考察が一貫するのではないか。この病の経験の意味は、基盤となる研究参加高齢者自身の経験があり、高齢者のこれまで長く踏み固められた病と生活の経験が「層」をなし、厚みがあるものという成り立ちをしている、ということが伝わるように記述を修正する必要がある。

これらの指摘に対し、時間をかけ、適切に修正がなされたことを審査委員全員が確認した。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。